



【素晴らしい出会い②】

私たちにあまり馴染みのない南アジアの国、
バングラデシュをご紹介します。

バングラデシュに恋して

vol.8



ダッカに住む私の友人のモニジャはデザイナーであり洋裁店を3軒経営している女性実業家です。彼女と初めて出会ったのは私がいよいよダッカでモノ作りを始めようとしていた昨年の12月初めの事でした。工場で打ち合わせをしている所へ彼女は黄色のスポーツカーを自ら運転してやってきました。黒のサングラスにパンツスーツ姿の彼女は私が今まで会ったバングラデシュのどの女性とも全く違う雰囲気を持っていました。その後何度かその工場で顔を合わせるようになり、ある日突然彼女から声をかけられました。「もし本気でバングラデシュの女性のために何かしようと思うなら私と一緒に来て」そこは男性から離縁され、行く場を持たない女性たちのシェルターのような場所でした。モニジャはそこで女性たちにミシン縫いの技術を指導する自立支援活動を行っていました。私は早速彼女たちに150枚のランチョンマットをオーダーしました。バングラデシュらしさを出したかったので配色は彼女たちの感性に任せるといって、

モニジャが作り方を指導しました。出来上がったランチョンマットは縫い目が荒かったり、びっくりするような配色もありましたが150枚全部買いました。帰国し、改めてそのランチョンマットを見ると1枚1枚に彼女達の希望や勇気や笑顔が交差し150枚全てがとても愛おしく思えます。まだまだ私の力はとて小さいですがモニジャは私に大きな機会を与えてくれました。Rosemary de Bangladeshも彼女達と一緒に成長していけたらいいなと思います。



<http://www.rosemary-motoko.com>
バングラデシュ情報および製品を
展示販売しています。

鶴田 素子さん

八代市のローズマリー紅茶店オーナー。50歳で大学院に再入学し、
開発経済学を専攻。途上国の貧困削減のためフェアトレードを推進する。

ご感想お待ちしております!

info@uki-pre.net